

学校教育目標	「夢中がいっぱい左近山の子」～つながる学び(知)・つながる仲間(徳/体)・つながる地域・未来(公/開) ○自ら問題を見付け、見直しをもってよりよく解決する力を育てます。(知) ○自分を律する態度と人を思いやる優しさをもち、自他を大切にする態度を育てます。(徳) ○規則正しい生活を心がけ、心身ともにたくましく生きる力を育てます。(体) ○よりよい社会を創るために、地域とともに、自ら考え実践する力を育てます。(公) ○多様性を尊重し、未来を見据えて、共に生きていく力を育てます。(開)				
	創立 11 周年	学校長 徳留 勇	副校長 上床 健太	2 学期制	一般学級: 16 個別支援学級: 6
学校概要	児童生徒数: 532 人 主な関係校: 左近山中学校・本宿中学校 (左近山特別支援学校)				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <共に支え合う力> <社会や未来とつながる力>	左近山中学校 左近山小学校 (左近山特別支援 学校)	自分で発見 みんなで解決 協力できる左近の子 ・本ブロックで育成を目指す三つの資質・能力をブロック授業研のテーマとして設定し、各教科等において、テーマを意識した授業を展開する。ブロックで年2回実施する。[10月3日・12月15日] ・児童生徒の交流日[10月26日]に、6年生が中学校の授業を参観し、部活動を体験する。

中期取組目標	○伝え合いを大切にしながら、主体的に学習できる授業づくりを推進し、総合的に学力を向上させます。[1年目]様々な教育活動に興味関心をもち、めあてをもって取り組めるようにします。[2年目]めあてにそって自分の考えをもち、振り返ることで学びの自覚化を図ります。[3年目]伝え合うことで自分の考えと友達との考えを比較し、考えを深められるようにします。 ○一人ひとりが自己有用感をもち、学校生活を楽しく送れるようにします。・3年間を通して、自分も相手も大切にできるようにし、自己有用感を高められるようにします。 ○まちの「人」とつながり、豊かな体験を通して、まちとともに心を育て、ともに学び育つ土壌をつくります。[1年目]地域でふれ合う活動を通してまちとかわれるようにします。[2年目]まちの「人」とつながり、体験を通して、充実感を味わえるようにします。[3年目]多様性を理解し、分かり合い、助け合い、ともに学べるようにします。
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①重点研を柱に、教科等で育む資質能力と教育課程全体で育む資質能力のめあての関連を図り、誰もが見直しをもって学習できる授業改善に努める。そのために、単元全体を見通すためのゴールの設定、誰もが安心して学習を進めることができる環境づくりや手立てを研究する。
徳 豊かな心	①「ふわふわ言葉」「いいところ見つけ」の取組、児童主体の「挨拶運動」、年間計画に基づいた「なかよし活動」等を通して、児童の心を養い、人権意識の向上を図る。②意図的、計画的な左近山特別支援学校との交流、予算に配慮した芸術鑑賞会の実施等により豊かな心の醸成に努める。
体 健やかな体	①昨年度よりも運動機会を確保する。縄跳び等、短時間でも体力向上につながる運動を取り入れ、体力アップを図る。②安全に留意した体育科授業の方法の理解を含めた授業力向上を目指し、教員間での相談の機会を設定し、授業改善を図る。
公開 未来を創る思い	①「地域人材バンク」、「学習の足跡の記録」の活用を通して地域学習の促進を図り、年度当初、途中、最後に進捗状況の確認をして、確実に推進する。②キャリア教育と紐づけた年間指導計画を作成し、学年や個人で見合う機会を設定し、意図的、計画的に実施できる仕組みづくりをする。
いじめへの対応	①研修等を通して高めてきた職員の事案対応力や児童理解力を初期対応、未然防止につなげていく。②諸会議やいじめ防止委員会を通して、職員全員で、児童を見守り、事案の対応を検討していくという体制を継続し、いじめの早期発見、未然防止に努める。
人材育成・組織運営(働き方)	①必要な研修に重点研も含めて、職員の資質・能力を高め、さらに個々で必要な資質・能力を高める研修を受けられる環境を整備する。②時程整備、情報部設置によるICT活用による事務の効率化や情報の共有化を図り、職員の裁量のある時間確保と質の高い学びの実現に努める。
特別支援教育	①課題を抱える児童についてアセスメントを行い、必要に応じて個別的教育支援計画、指導計画を作成し、適切な支援・指導をチームで行う。②研修等を通してユニバーサルデザインについての理解を深め、学校全体での指導と環境整備の両面に取り組む。
児童指導	①「めざそう左近山の子」を月の目標の中心に据え、保健目標、給食目標も関連させながら、学校全体で取り組む。②子どもの社会的スキル横浜プログラム年間計画をもとに支援検討会を実施し、児童や集団の理解を深め、支援体制を整える。
地域学校協働活動	①学校運営協議会で3校が協同して様々な活動の協議を通して、3校がさらに緊密に連携できるように努める。②学校コーディネーターを周知し、児童が学習活動に活用できる体制を整えることで、特に、地域にかかわる活動を促進する。
担当	主幹会
担当	